

令和7年用生食もも病害虫防除基準

散布時期		適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）		収穫前 使用日数	総使用 回 数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
① 発 芽 直 前		1. 水 （88ℓ）						1. ハーベストオイルに替えて、スプレーオイル50倍（発芽前、－）を使用してもよい。 2. トレノックスフロアブルに替えて石灰硫黄合剤10倍（発芽前、－）を使用してもよい。その際、アプロードフロアブルは加用しない。 3. コスカシバの春季対策として、開花期までフェニックスフロアブル500倍（開花期まで、樹幹散布1回）を樹幹部及び主枝に丁寧に散布する。 4. 温暖な日を選び、かかりむらのないようにていねいに散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類 モモアカアブラムシ （ハダニ類）	2. ハーベストオイル 50倍（2ℓ）	発芽前	－					
	縮葉病	3. トレノックスフロアブル 500倍（200mℓ）	7日前 まで	5回以内	350ℓ				
	カイガラムシ類幼虫	4. アプロードフロアブル 1,000倍（100mℓ）	14日前 まで	3回以内					
	殺虫剤、除草剤の散布制限		訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまで殺虫剤並びに除草剤の散布はしない。						
【特別 対策イ ムシン シクイ ン】		ナシヒメシンクイムシ	1. ナシヒメコン 100本／10a		－	－	－	1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を参照し、開花前に設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
せん 孔 病 重 点 防 除	② 開 花 前 ま で （風せん状）	せん孔細菌病 縮葉病	1. ICボルドー412 30倍（3.3kg）		－	－	350ℓ	1. せん孔細菌病の重点防除時期なので、適期に散布する。特に前年せん孔細菌病の多発した園では防除を徹底する。 2. シンクイムシ類の多い園では、4月下旬にコンピューザーNを150～200本／10a設置する（下表「交信かく乱剤」参照）。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	③ 落 花 直 後 （巣箱撤去後）		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）					1. ポリネーションの引き上げ後に散布する。 2. 結実前の若木主体の園では、スコア顆粒水和剤に替えて、トップジンM水和剤 1,000倍（前日まで、6回以内）を使用してもよい。 3. ストマイ液剤20に替えてアグレプト水和剤1,000倍（収穫60日前まで、2回以内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		せん孔細菌病	2. ストマイ液剤20 1,000倍（100mℓ）		60日前 まで	2回以内			
		灰星病	3. スコア顆粒水和剤 2,000倍（50g）		前日まで	3回以内	400ℓ		
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	4. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍（50g）		前日まで	3回以内				
細 菌	④ 前 回 散 布 10 日 後	せん孔細菌病	1. ICジンク水和剤 1,000倍（100g）		発病前～ 発病初期	8回以内		1. コスカシバが多い園では、スカシバコンLを40～100本／10a設置する。 2. うどんこ病が見られる園では、トリフミン水和剤1,500倍（前日まで、3回以内）を散布する。 3. カメムシ類の発生が多い園では、5月中旬～5月下旬にスミチオン水和剤40 1,000倍（3日前まで、6回以内）を2～3回散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		灰星病	2. トレノックスフロアブル 500倍（200mℓ）		7日前 まで	5回以内	400ℓ		
		ハマキムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	3. フェニックスフロアブル 4,000倍（25mℓ）		前日まで	2回以内			
病 重 点	⑤ 6 月 上 旬	せん孔細菌病 果実赤点病 黒星病	1. ペンコゼブ水和剤 600倍（166g）		21日前 まで	3回以内	400ℓ	カイガラムシ対策 カイガラムシ類が多い園では、5月下旬～6月上旬に発生状況を確認し、トランスフォームフロアブル2,000倍（7日前まで、3回以内）を枝幹に十分かかるよう加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類	2. サイアノックス水和剤 1,000倍（100g）		21日前 まで	3回以内		1. 今回防除から収穫終了期まで、バイカルティ1,000倍を加用してもよい。その際、リン酸の含まれる葉面散布剤は使用しない。 2. 極早生品種のある園では、サイアノックス水和剤に替えて、ダイアジノン水和剤34㉔ 1,000倍（前日まで、4回以内）を使用する。	
除	⑥ 6 月 中 旬	せん孔細菌病	1. マイコシールド 2,000倍（50g）		21日前 まで	5回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
		灰星病	2. トレノックスフロアブル 500倍（200mℓ）		7日前 まで	5回以内			
		シンクイムシ類 モモハモグリガ （カメムシ類）	3. アグロスリン水和剤㉔ 1,000倍（100g）		前日まで	5回以内			
		ハダニ類	4. ダニコングフロアブル 2,000倍（50mℓ）		前日まで	1回			
⑦ 6 月 下 旬	せん孔細菌病	1. デランフロアブル㉔ 600倍（166mℓ）		7日前 まで	4回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ	
	シンクイムシ類 カメムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）		前日まで	2回以内				
⑧ 7 月 上 旬	灰星病 果実赤点病	1. パスポート顆粒水和剤 1,000倍（100g）		前日まで	6回以内	400ℓ	1. シンクイムシ類、モモハモグリガが多い園では、防除間隔を10日以上空けないようにする。 2. ナシヒメシンクイの多い園では7月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ	
		モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類 シンクイムシ類	2. スタークル顆粒水溶剤 2,000倍（50g）		前日まで				3回以内

散布時期		適用病虫害	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）		収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴																								
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。																																	
灰 星 病 重 点 防 除	⑨ 7 月 中 旬	灰 星 病 黒 星 病 う どん こ 病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍（50ml）		前日まで	3回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ																								
		シンクイムシ類 ハマキムシ類	2. ダイアジノン水和剤 ³⁴ ㉔ 1,000倍（100g）		前日まで	4回以内																											
	⑩ 7 月 下 旬	灰 星 病	1. ロブラール500アクア 1,500倍（66ml）		前日まで	3回以内	400ℓ	1. 果実汚染に十分注意する。 2. ダニゲッターフロアブルに替えて、マイトコーネフロアブル1,000倍（前日まで、1回）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																								
		シンクイムシ類 モモハモグリガ ハマキムシ類	2. エクシレル S E 2,500倍（40ml）		前日まで	3回以内																											
		ハ ダ ニ 類	3. ダニゲッターフロアブル 2,000倍（50ml）		前日まで	1回																											
	散布時期	適用病虫害	早 生 紅国見・あかつき	中 生 いけだ・川中島・黄金桃	晩 生 あぶくま・だて白桃・ゆうぞら	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）			防除履歴																							
⑪ 8 月 上 旬	灰 星 病 黒 星 病 う どん こ 病	1. パレード15フロアブル 2,000倍（50ml）（前日まで、2回以内）			400ℓ	1. 早生種でせん孔細菌病が多い園では、収穫後直ちに I C ボルドー412 30倍（－、－）を14日間隔で2～3回単用散布する。 2. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。			散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	シンクイムシ類	2. アーデントフロアブル 2,000倍（50ml）（前日まで、3回以内）																															
⑫ 8 月 中 旬	灰 星 病 黒 星 病		1. アンビルフロアブル 1,000倍（100ml） （前日まで、3回以内）		400ℓ	<table><tr><th>薬 剤 名</th><th>希 釈 倍 率</th><th>収 穫 前 使用日数</th><th>総使用回数</th><th colspan="2">使用時期 7月 8月</th></tr><tr><td>カネマイトフロアブル</td><td>1,000倍</td><td>7日前まで</td><td>1回</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>コテツフロアブル^㉔</td><td>2,000倍</td><td>前日まで</td><td>2回以内</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>コロマイト乳剤</td><td>1,000倍</td><td>7日前まで</td><td>1回</td><td></td><td>○</td></tr></table>			薬 剤 名	希 釈 倍 率	収 穫 前 使用日数	総使用回数	使用時期 7月 8月		カネマイトフロアブル	1,000倍	7日前まで	1回	○		コテツフロアブル ^㉔	2,000倍	前日まで	2回以内		○	コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回		○	散布日 月 日 散布量 ℓ
	薬 剤 名	希 釈 倍 率	収 穫 前 使用日数	総使用回数					使用時期 7月 8月																								
カネマイトフロアブル	1,000倍	7日前まで	1回	○																													
コテツフロアブル ^㉔	2,000倍	前日まで	2回以内		○																												
コロマイト乳剤	1,000倍	7日前まで	1回		○																												
アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類	2. バリアード顆粒水和剤 ^㉔ 2,000倍（50g） （前日まで、3回以内）																																
⑬ 8 月 下 旬	灰 星 病		1. ナリア W D G 2,000倍（50g） （前日まで、2回以内）		400ℓ	3. スカウトフロアブル ^㉔ に替えてロディー水和剤 ^㉔ 1,000倍（前日まで、5回以内）を使用してもよい。			散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	2. スカウトフロアブル ^㉔ 2,000倍（50ml） （前日まで、5回以内）																															
⑭ 9 月 上 旬	灰 星 病			1. インダーフロアブル 5,000倍（20ml） （前日まで、4回以内）	400ℓ				散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	シンクイムシ類 モモハモグリガ			2. モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔ 2,000倍（50g） （前日まで、3回以内）																													
⑮ 9 月 中 旬	灰 星 病			1. アミスター10フロアブル 1,000倍（100ml） （前日まで、3回以内）	400ℓ				散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	シンクイムシ類 モモハモグリガ			2. サムコルフロアブル10 5,000倍（20ml） （前日まで、2回以内）																													
⑯ 9 月 下 旬	灰 星 病			1. オーシャンフロアブル 2,000倍（50ml） （前日まで、3回以内）	400ℓ				散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ			2. スカウトフロアブル ^㉔ 2,000倍（50ml） （前日まで、5回以内）																													
9 ⑰ 月 収 中 穫 下 旬 後		1. 展着剤(アビオン－E) 1,000倍（100ml）			400ℓ	1. I C ボルドー412に替えて、クレフノン100倍加用のコサイド3000、2,000倍（収穫後～落葉まで、－）又は、クレフノン100倍加用のクプロシールド1,000倍（－、－）を使用してもよい。 りんごの隣接園では散布の際に飛散しないように十分注意する			散布日 月 日 散布量 ℓ																								
	せん孔細菌病	2. I C ボルドー412 30倍（3.3kg）		－						－																							
	モモハモグリガ	3. スミチオン水和剤40 1,000倍（100g）		3日前まで						6回以内																							
⑱ 9 月 下 旬	近年、せん孔細菌病が多発しているので、落葉前までに I C ボルドー412 30倍（－、－）を必ず2回散布する。									散布日 月 日 散布量 ℓ																							
		1. 展着剤(アビオン－E) 1,000倍（100ml）				400ℓ	1. 例年コスカシバが多い園では、落葉後ガットサイド S 1.5倍（30日前、1回）を樹幹部及び主枝に散布する。																										
せん孔細菌病	2. I C ボルドー412 30倍（3.3kg）		－	－																													

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分は6～7月中旬に徒長枝管理を行い、冬季に切りすぎない。 3. 日焼け・凍害防止のため、主幹部にホワイトンパウダーを散布または塗布する。
せん孔細菌病	1. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 2. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適正な樹勢の維持に努める。 3. 前年の被害枝は剪定時に切り取り園内に放置せず、適切に処分する。
灰 星 病	1. 被害部位（花・葉・果実）は、見つけしだい除去し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
カ メ ム シ 類	1. 卵塊・ふ化幼虫は見つけしだい捕殺する。

生食もも施肥基準（成木：10a 当たり）

作型・目標収量	肥 料 名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K
生食もも 2,500kg	フレッシュフルーツ有機70	100kg	収穫後（10月上旬）	10.0	5.0	2.0

交信かく乱剤（シンクイムシ対策）

対象病虫害	薬剤名	使 用 方 法
モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	コンフューザーN	4月下旬にコンフューザーNを150～200本／10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	

- 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園内均一に設置する。
- 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 防風ネットなどを利用する。
- 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

凍害防止

- 夏季管理も行い、大きな切り口を作らないよう、注意する。
- 主幹部に白塗剤を塗布することで、冬期における樹体温度の上昇を抑え、凍害を防止します。
- 水6ℓにホワイトンパウダー2kgを徐々に入れ、十分攪拌してペースト状にする。10分間程度放置後、ブラシなどで塗布する。